

メトロール

《会社概要》
 本社 東京都立川市高松町1-100
 設立 1976年
 社長 卓司氏
 事業内容 位置決めセンサーの開発・製造
 売上高 約10億円(2009年1月期)
 従業員数 約80人

位置決めセンサーが、組み付けが安定するカー、メトロールの本社では「メモ用紙に記入して目安箱に投函(とうかん)」。翌朝には会議の議題となった。

卓司社長は、「パート社員は、すぐさま部門の設計図を描き、汎用工作機械で改良品をつくり上げてしまった。約千種類のセンサーを生産する同社の会議は、スピード第一だ。」

卓司社長は、「仕切りのなるのは工作機械で正確な加工をするため、工具の先端位置を検知するセンサー。累計で三十万回以上加工された。松橋社長は「マシンングセの中で、T字型の部分と分が触れ合い、刃の先端位置を確認することが不可欠になる。三百万回接触の自社製治具だ。」

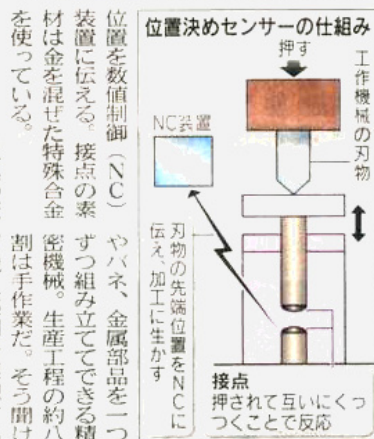
卓司社長は、「仕切りのなるのは工作機械で正確な加工をするため、工具の先端位置を検知するセンサー。累計で三十万回以上加工された。松橋社長は「マシンングセの中で、T字型の部分と分が触れ合い、刃の先端位置を確認することが不可欠になる。三百万回接触の自社製治具だ。」

MC向けセンサー、シェア7割



パート従業員が正確に組み立てられるように工程を工夫した(東京都立川市)

全手作業を担う パート職人集団



保たれるので「誰が取り組んでも同じ姿勢、角度、やり方になって作業者のクセがでない」(刀柄雅男取締役)。「矯正器具としての側面があるわけだ。」

更時はもちろんです。卓司社長は「パート職人の五割強を占める女性パート。大半は長い加工人仕するまでハンタ付けの後も、セも知らない素人だった。同期比六割減の状態。工場も週休三日だが、医療機械向けなど新たな引き合いも出てきた。」

川金曜日掲載